

## 西郷氏に関わる年表

<参考> 豊橋市史，八名郡誌，東三河の戦国時代

年 代	で き ご と
1529年（享禄2）	宇利の戦い 松平清康，東三河を勢力下に入る。
1535年（天文5）	守山崩れ 松平清康が家臣に討たれる。
1537年（天文6）	戸田氏，吉田城を奪取。
1549年（天文18）	松平広忠没 今川義元が三河を平定 諸将今川方につく。
1560年（永禄3）	桶狭間の戦い 今川義元討死。
1561年（永禄4）	西郷正勝，菅沼定盈 <sup>さだみつ</sup> 等，松平につく。 今川方の吉田城主，小原鎮実 <sup>おはらしげね</sup> に攻められ， <b>定盈</b> 野田城を明け渡し， <b>西郷に退く</b> 。 <b>高城に砦</b> を構える。 今川方の朝比奈泰長 <sup>やすなが</sup> が五本松城を攻め， <b>正勝・元正父子が討ち死に</b> 。次男の清員 <sup>きよかず</sup> が本領を取り返す（仇を討つ）。
1562年（永禄5）	定盈，野田城を奪い返す。松平・織田が同盟。
1563年（永禄6）	元康が家康と改める。
1564年（永禄7）	家康，吉田城を攻め，開城させる。
1568年（永禄11）	定盈，家康の遠州攻めで中宇利に入る。先鋒として刑部 <sup>おきかべ</sup> （引佐）を攻略。家康，遠州の各地を攻略し勢力拡大。
1569年（永禄12）	山家三方衆，武田信玄に属す。
1571年（元亀2）	武田の侵攻があり， <b>西郷義勝が竹広表の戦いで討ち死に</b> 。 定盈，信玄に攻められ <b>西郷に退く</b> が，野田城修復後戻る。
1572年（元亀3）	信玄，遠州へ出陣。家康，三方ヶ原で敗れる。
1573年（元亀4）	信玄，野田城を攻め開城させるも甲府への帰途，死亡。
1574年（天正2）	山県昌景 <sup>まさかげ</sup> が西郷に侵入 <sup>いえかず</sup> ，家員，定盈とともに撃退。
1575年（天正3）	<b>長篠・設楽原の戦い</b> 家員は酒井忠次に属し定盈とともに鷹ヶ巣攻めに加わる。
1578年（天正6）	<b>お愛の方</b> ，徳川家康に召され浜松城に上り側室となる。
1579年（天正7）	<b>お愛の方</b> ，西郷の局 <sup>つぼね</sup> と称され2代将軍となる <b>秀忠</b> を産む。
1580年（天正8）	<b>西郷の局</b> <sup>ただよし</sup> ，忠吉（尾張の清洲城主となるも若死）を産む。
1590年（天正18）	家員 <sup>いえかず</sup> ，家康関東移封の際，下総国 <sup>しもうさのこく</sup> （千葉）で5千石を賜る。

# 西郷氏と菅沼氏

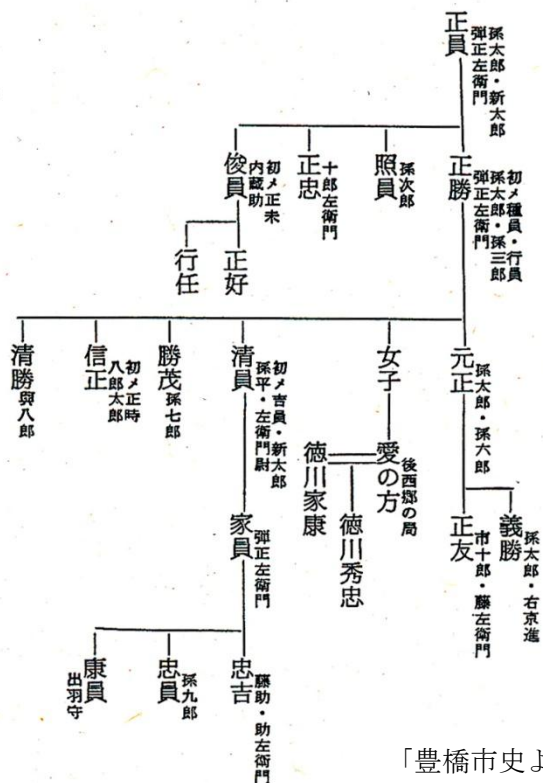
西郷氏と野田の菅沼氏は姻戚関係にあり、互いに支え合って戦国時代を生き抜いています。西郷正勝に嫁ぎ、元正、清員を産んだのは野田城主菅沼定則（定盈の祖父）の娘です。したがって元正、清員兄弟と定盈は従兄弟関係になります。

西郷正員は、松平清康に従い、宇利の戦いでは菅沼定則とともに先陣として軍功をあげたとされています。しかし、松平勢の後退、今川氏の東三河進出のためやむなく今川氏につきまします。正員没後、正勝が継ぎ、今川方に属しました。その後、西三河において松平元康の勢力が強大になってくると、西郷正勝はじめ、野田の菅沼定盈、田峯の菅沼定忠等が松平に従いました。この時、次男の清員は人質として岡崎に送られました。さらに、長篠の菅沼氏、作手の奥平氏等が続々と元康につくと、今川氏真は大いに怒り、当時吉田城内にとめおかれた諸将の人質13人を殺害してしまいます。正勝、定盈の妻も含まれていました。

永禄4年（1561）、吉田城の小原鎮実は今川に背いた諸将を討つべく、野田城の菅沼定盈を攻撃しました。五本松城にいた西郷正勝は、長男の元正を送り、定盈を助けたが、こらえきれず城を明け渡して西郷に退きました。西郷に退いた定盈は、高城に砦を構え、正勝も中山の堂山に砦を構えました。さらに鎮実は、西郷の定盈と正勝を攻めるもなかなか落とせず、正勝は五本松に築城して移り、元正に崇山月ヶ谷城を守らせました。

しかし、今川方の朝比奈泰長が五本松城に夜襲をかけます。不意を突かれた正勝は苦戦に陥り、月ヶ谷に帰る途中の元正が引き返しましたが、衆寡敵せず、正勝・元正父子は討ち死にしました。この後、元康のもとにいた次男の清員は仇を討とうと願い出て、元康から兵を得て、本領を取り返しました。

しかし、清員は元康の命を固辞し、亡兄の子義勝に跡を継がせました。



「豊橋市史より」